

令和3年1月13日

南の風 380

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

神奈川県の感染拡大が懸念されます。一人ひとりが心して行動しましょう。女子皇后杯決勝の続きです。接戦となりましたので、戦評風に進めます。前半が終わってトヨタ47対41 ENEOSからです。

3Qに入ると、トヨタはマンツーマンディフェンスを敷く。(スイッチングマンツーマン)

ENEOSが岡本のスピターンシュートで先制する。トヨタはエプリンのロングシュートで対抗する。その直後、中村がエプリンとの1対1のパワープレーを制し得点する。中を抑えられているトヨタは、ボールを外にキックアウトして三好の3Pが決まる。ENEOSは透かさず岡本がドライブシュートを入れる。トヨタはエプリンがゴール下でバックシュートを決める。そしてディフェンスをチェンジしてゾーンを敷く。それを見たENEOSは、宮澤が外でボールをもらい3Pを沈める。入れ合いとなる。

スコアは、トヨタ54対50 ENEOSとなる。

ここで両チームターナーオーバーがあるが、ENEOSの岡本が相手のミスに乗じて速い展開から3Pを決める。トヨタも負けじと素早い展開から、三好がこの日5本目の3Pを入れ返す。

意地と意地のぶつかり合いとなる。さらにトヨタの三好、ENEOSの宮澤が3Pを狙うが両者とも決め切れない。その後トヨタの長岡が、ミドルポストでボールをもらいターンして得点する。

ENEOSはオフェンスシステムが上手く機能しない中、個人技で何とか凌ぐという流れが続く。そのような中、トヨタのエプリンが中村のファウルを誘いフリースローを得るが2本とも外してしまう。その後エプリンが豪快なドライブからファウルをもらい、フリースローで1点を得る。

ここで宮崎と中村のハイピック&ロールが見事に決まり、ENEOSが得点する。トヨタはすぐさまエプリンのスクリーンを利用した三好が、この日6本目の3Pを確実に決める。

スコアは、トヨタ63対55 ENEOSとなる。

ENEOSは中村が、エプリンとの1対1パワープレーを制してターンシュートを決める。さらに宮崎が速い展開に持ち込み、ドリブルのペースを変えたドライブでファウルを誘い得点する。フリースローも決める。ここでENEOSはオールコートへのプレスに出る。トヨタは冷静にボールを運ぶが、河村のコーナーからのシュートは外れる。ENEOSは速いボール運びから中田に合わせるがステファニーがジャンプボールに持ち込む。トヨタボールとなり攻め込むが三好のジャンプシュートがリングに嫌われる。ENEOSは走って宮澤に合わせ正面からティアドロップシュートに行くが入らない。ここで中村の豪快なリバウンドがさく裂し、リングにねじ込む。ここで1点差(トヨタ63対62 ENEOS)となる。

トヨタはインサイドが使えず、ボールを回すがいいシュートセレクションが取れない。ショットクロックが迫り、タフショットとなりシュートが決まらない。オーバータイムとなる。

残り時間29秒。ENEOSは宮崎がボールコントロールして、ショットクロックが10秒残り時間が14秒で、宮崎と宮澤でハイピックを仕掛ける。このプレーでは決め切りなかったが、宮澤がボールをつないでコーナーの中田にパス。中田はフェイクを入れて、ワンドリブルジャンプシュートを放つと見事に決まる。ENEOSが3Q終了間際に逆転する。ENEOS64対63トヨタとなった。